



24時間、エネルギーを消費する自動販売機

### 自動販売機の豊かさ

〜東日本大震災③〜



旅の楽しさは非日常性にある。そこには日常生活で味わえない解放感があり、同時に知らない世界との出会いがある。また、旅に出て初めて日常生活では気づかないことに気づくことがある。

今から三十年前の一九八一年、初めてフィリピンを旅した。フィリピンは太平洋戦争で日本が侵略した国である。戦後、日本は高度経済成長を経て物質的に豊かな国になった。一方、フィリピンは貧富の格差がひどく、国民の大多数は貧しい生活を強いられる。

旅の目的が貧しい人たちとの交流であった

ので、首都マニラのスラム街に住む人たちやルソン島北部の山岳地方を訪ねたが、まだ電気のない生活をしている人たちがいるのには驚いた。

帰国後、日本の自動販売機が気になり始めた。それまでは何とも思わなかったが、電気もない生活をしている人たちに出会い、日本人だけがこんな豊かさを享受しているのかと思つたのである。

私の知る限り、日本ほど自動販売機が多い国はない。一十四時間、電気を消費する自動販売機。今回の東日本大震災に伴う原子力発電所の事故で改めてこの問題が気になり始めた。

ここで原子力発電の是非を論ずるつもりはないが、日本はアメリカ、フランスに次いで原発が多い。総発電量の約三割は原子力発電に頼っている。

今の日本の豊かな生活は電気を始めとするエネルギーによって成り立っている。この生

活を維持するには原発は不可欠なものとして推進されて来た。

しかし、原発の危険性は当初から指摘され、反対運動もあつた。

手元にカトリック教会の中の「正義と平和協議会」が作成したパンフレットがある。今回の福島原発の事故はそのパンフレットが指摘する通りの事故が現実のものとなった。

これから原発問題は国民全体、いや世界的立場からコンセンサスを得る必要がある。今、計画停電とか節電の話はあるが、もっと根源的な立場から「低エネルギー社会」を目指すという視点の話がほとんど出てこないのを不思議に思う。

火力発電にしても、石油、石炭、天然ガスなどの有限な地下資源を大量に消費する。その上、二酸化炭素による地球温暖化問題がある。水力発電も環境破壊の問題などがある。

問題の本質は、ばく大なエネルギーを消費

する現代文明社会のあり方にあるのではないだろうか。日本では水や電気はあるのが当たり前と思いがちであるが、そのために膨大なエネルギーが消費されている。決して当たり前ではないのだ。

自分たちだけが勝手にエネルギーを消費することを改め、低エネルギー社会を目指す必要があると思う。人との交わりのない自動

販売機に象徴される物質的な豊かさを追いつめることを改め、人との関わりの中から生まれる人間的豊かさを大切にす社会へ発想を転換する、今回の大震災を新たな豊かさへの第一歩としたものである。

◇ 「静けさは物事に対する新しい見方を与えてくれます」  
(マザー・テレサ)



地震列島に54基の危険な原発があると指摘するパンフレット